丸山、相馬、文さん最優秀

第66回全国小・中学校作文コンクールの県審査が行われ、最優秀作品が決まった。小学校低学年の部（県知事賞）は私立朝日塾小3年丸山ゆいさん（8）の「がんばったうらじゃ」、同高学年の部（県教育長賞）は岡山大付属小5年相馬怜奈さん（11）の「会いたくないよ、会いたいよ。」、中学校の部（読売新聞社賞）は岡山朝鮮初中級学校3年文希与（ムンフィヨ）さん（14）の「受け継がれる伝統」が、それぞれ選ばれた。いずれも中央審査に進む。このほか小学校各部の入賞4点も決まった。

入賞は次の皆さん。

◇小学校低学年　桂颯志（岡山大付属1年）▽万代治孝（朝日塾2年）▽西津有彩（岡山市立三勲3年）▽仙波愛衣（倉敷市立連島東3年）

◇同高学年　南部匠史（赤磐市立城南4年）▽片岡真優（岡山大付属5年）▽渡辺理彩子（朝日塾5年）▽西村成三花（倉敷市立連島東5年）

◇中学校　該当なし

主催　読売新聞社
後援　文部科学省、県教委
協賛　ＪＲ東日本、東海、ＪＲ西、イーブック、アティブジ
協力　三菱鉛筆

小学生の低学年には、夏休みの体験がもとになっている作品が多かった。自分の体験や会話を取り入れながら書かれたものが心に残った。

高学年は、全体的にレベルが高かった。入賞できなかった作品も文章力があり、将来が楽しみ。同年代に読んでもらって共感してほしい作品もあった。

中学生の作品は、国際理解を考えた中学生らしい考えが書かれていた。

全体的に、きちんとした自分の意見が丁寧に書かれているものの、最後のまとめのところが書き切れていない作品が目立ち、もったいなかった。

審査員（順不同、敬称略）
馬場昭夫・岡山市立西大寺南小学校長▽植田朋哉・同市立御南中学校長▽大賀俊彦・県教委義務教育課指導主事（主幹）

最優秀受賞 喜びの声

文章にする難しさ感じた

小学校低学年の部
丸山 ゆいさん 8
朝日塾小3年

初めての応募なので、まさか賞をもらえるとは思っていませんでした。うれしい気持ちでいっぱいです。

夏休みに踊った「うらじゃ」をテーマにしました。友達と一緒に練習したり、本番で上手に踊れたりしてたくさん拍手をもらったりして、とても印象に残っていたからです。

作文を書いてみて、楽しかった出来事や、うれしいと思った自分の気持ちを文章にするのは、とても難しいことだと感じました。お母さんに何度か添削をしてもらい、主語述語や言葉遣いにも気を付けて、2日間かけて完成させました。賞をもらえたということは、気持ちがちゃんと伝わったということだと思うので、とても自信になります。

これからも色々な思い出を日記に書くなどしながら文章力を上達させて、また来年も賞をもらえるように頑張りたいと思います。

自分の気持ち 形に残せた

小学校高学年の部
相馬 怜奈さん 11
岡山大付属小5年

お父さんの仕事の関係で、小学4年の3学期に愛媛県から現在の学校に転校しました。作文の内容は、転校後、自分の気持ちを友達になかなか伝えられなくて悩んだことを書いたものです。

書き進めるうちに、当時のことが思い出され、胸がいっぱいになったこともあります。付き合いの長い愛媛の友達と会いたい気持ちと、会いたくない気持ちが入り交じりました。悩んだ末に見つけた答えは、自分と向き合って気持ちを伝えることの大切さでした。

作文は苦手ですが、自分の気持ちを形に残したかった。夏休みの半分を、毎日2、3時間ずつ、書いては直す繰り返しで書きためました。4枚書いたこともありますが、これほど長い文章は初めてでした。

受賞は、家族だけでなく、クラスの友達も喜んでくれました。これからも作文を書きたいと思います。

色んな見方 知ってほしい

中学校の部
文 希与さん 14
岡山朝鮮初中級学校3年

中学生になって着始めた制服のチマチョゴリについて、体験を中心に書きました。文章にはあまり自信がなかったのですが、先生の薦めもあって初めて出品しました。

最初に受賞を聞いた時はびっくりしましたが、自分の文章が評価されたんだと思うと、とてもうれしくなりました。

チマチョゴリ姿を変な目で見る人もいれば、先入観を持たずに普通に接してくれる人もいます。人は着ているものによって色んな見方をしているんだ、ということを知ってもらいたいとの思いを込めて書きました。

体験した時の気持ちや情景を、素直な文章で表現したのもよかったのかもしれません。

様々な見方をされるチマチョゴリですが、これからも誇りを持って着て、伝統を受け継いでいきたいと思っています。

週間運勢

木星王

□数字は生まれ月

29日～11月4日

＜上昇運＞2 6 秋の気配感じる森林公園や山の温泉そぞろ歩き吉。7 10 求職、サイド

1月　仕事や家事の負担あ
2月　秋の行楽好機。宿、
3月　立腹する事あり。対
4月　多忙な日常続く。夜
5月　生活スタイル変わら
6月　休日とその前夜楽し
7月　よい電話や来客あり
8月　家庭円満。家族思い
9月　平和な状況保てる。
10月　運は強いか。交渉、
11月　若干の不運さあるか
12月　予想外のミスやトラ

ヤやジグで、良型のタチウオが5～30匹。チヌも好調で、オキアミを餌にしたフカセで30～45㌢前後が1～5匹。（笠岡市笠岡、笠岡渡船、0865・63・6224）

★小豆島周辺　5～7人乗りの船で、25～28㌢のマアジが60～90匹、25～33㌢のマダイ30～40匹。いずれも専用サビキで。食わせサビキの泳がせ釣りは、餌となる小アジと小イワシが集まらず、ピークを過ぎた模様。（岡山市中区兼基、釣船ポイント釣具店、086・278・2171）

★福山地方　軒では、10～20㌢のカワハギが胴突き仕掛けで10～20匹。田尻では、10～20㌢のハゼが投げで5～15匹。走島